

計画期間 平成18年12月1日～平成23年3月31日

学校教育目標

自己のよりよい成長を求めて自ら学び続け、豊かな感性を持ち、人や自然と共にとくましく生きていく力を身につけた子を育てます。 具体目標 「人や自然にやさしい子」を育てます。

学校経営方針

- 学校教育目標を実現するため、活力と魅力にあふれた学校づくりをめざします。
- ・パイオニアスクールよこはまに応募し、環境教育実践と推進に努めます。
 - ・自分をつくり横浜を創る子どもを育てるため、環境教育を軸とした教育課程を編成します。
 - ・家庭や地域と連携し、社会の要請や信頼に応えた学校づくりを進めます。
 - ・教職員が相互に啓発・連携する活気にあふれた学校運営組織の確立を目指します。

指導の重点

- ・基礎基本の確実な定着を図るため、各教科等の学習指導・評価の充実に努めます。
- ・自然・社会体験等の体験的な学習や問題解決的な学習を積極的に取り入れます。
- ・「校庭しぜん体験博物館」づくりに全学年がかかわる環境教育年間計画を作成します。
- ・子どもの主体性や問題解決能力を高めるため、総合的な学習の時間と教科等の関連を深めます。
- ・学校外の人々や異年齢児童等とのかかわりの中で、豊かな人間性を養います。

改善の視点

取組目標

1 子どもの学力に関する議論がある中で教科等の指導の充実を図っていく必要があります。

- 平成19年度は、低学年の算数、国語に少人数指導を開始し、計算力と表現力を養います。また中学年は算数で習熟度別指導を取り入れ、高学年は4学級とします。
- 英語学習については、平成19年度は、全学年、年2回試行し、平成20年度には、全学年8時間、21年度に15時間と拡大していきます。
- ・教員の授業力を高めるため、平成19年度は市授業改善支援センター活用の教員の割合を80%以上とし、平成21年度までには、全教員が年間2回以上の「研究授業」を行い、内外からの講師の指導を受け、研鑽を積みみます。
 - ・平成19年度は、夏期休業期間中のスタデイトimeを7月23日から27日まで実施し、読み・書き・計算の力を高める指導を行うとともに単元自己評価表の活用で、自己学習力の充実を図ります。

2 現代社会の中で、規範意識や思いやり等の心配り等欠如が問題になっており、豊かな心をはぐくむ取組が必要となっています。

- ・平成19年度は、夏期休業期間中の体験講座を7月30日31日に実施し、人と自然、人と社会、食と栽培、生活環境、資源とエネルギー等を基盤に「協働」「行動」の価値感を高めます。
- ・家庭と連携して心の教育を進めるため、学校を開く週間中に道徳の公開授業を全学年実施します。また、毎週水曜日の朝の「読書タイム」を確実に実施していきます。
- ・平成19年度4月から児童代表委員会を中心に「下小優しい心を広げる挨拶運動」を開始し、児童の70%が「いつも挨拶できる」と答えられるようにします。

<p>3 家庭や地域と連携しながら、楽しく学び魅力ある学校づくりに取り組む必要があります。</p>	<p>地元市民団体や企業、卒業生クラブ等とタイアップした環境教育の推進により、パイオニアスクール横浜(PSY)指定校として開かれた学校教育活動を実践します。</p> <p>港南区内から消えつつある平家ボタルや関東タンポポの育成、田んぼの風景を「校庭しぜん体験博物館」の中に取り込み、魅力ある体験学習を実践していきます。平成19年度は、体験講座に企業参加による環境講座を実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼保小連携と共に、平成19年度には小中高の連携による授業参観、ボランティア活動、研修等を実施します。
<p>4 子どもの安全を脅かす事件が後を絶ちません。安全・安心な学校づくりが必要になっています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成19年度も、交通量の多い学区での危険回避意識を高める交通教室を実施するとともに朝の集団登校や帰りの複数下校を職員が見守ります。 ・ 木の実サポーターズクラブパトロール隊の見守り活動を平成18年4月に学区全体に拡大、平成19年度は授業公開や重点研究授業時に、保護者が参観と共に見守り活動に加わるようにします。 ・ 毎年、児童の不審者対応訓練を実施し、児童の100%が、理解し、実践できることを目指します。

<p>人材育成の考え方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 増加が予想される新任教諭、若手教職員の育成を図るため、教育委員会主催研修を活用すると共に校内初任研を充実し、近隣校との合同研修を実施します。(1・2・3年次研) ・ 若手教職員層の活力を学校全体の活性化につなげていくため、校内に若手を中心にしたPSY推進プロジェクトを設けて、改革・改善に取り組みます。 ・ 複雑化する児童指導に対応するため、中堅層の自覚を高め児童指導の指導者としての研鑽を積むと同時に、校内若手層の指導業務が位置づくようにします。
<p>平成19年度の重点取組項目</p>	<p>横浜市環境教育実践推進校として3年目にあたり、全教科に位置づく環境教育カリキュラムの改善、他校、市民団体とのネットワークでの「人や自然に優しい子」の育成に努め、子どもや保護者、地域の評価を活性化に生かします。(学校評価モデル校)</p> <p>学校運営協議会を発足し、委員に環境教育に携わる方を加え、本校の特色ある教育活動の充実を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前期1日、後期4日の計5日間、朝から放課後まで全日学校公開日を設けます ・ 40周年記念事業計画の推進を図り、実行委員会を中心に活動します。
<p>これまでの取組結果</p>	<p>平成18年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 夏季休業中のスタディタイム、体験講座、祭礼パトロールの実施。 ・ 7/6環境教育研究発表会実施、来校200名。 ・ 2/15総合的な学習の時間出前講座実施、18名来校。
<p>教育懇話会の意見</p>	<p>平成19年度中に「下永谷小学校教育懇話会」に意見を頂きました。主な教育懇話会の意見は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校が落ち着いているので安心できる。子どもたちの挨拶がよくできている。 ・ 安全・安心な学校づくりに地域としても協力していきたい。 ・ 余裕教室が無い状況であることと施設の老朽化が目につく。教室廊下は、もっと採光の工夫がほしい。 ・ 自然環境が充実して緑や水辺が気持ちよい。 ・ 子どもたちの言葉遣いが気になる。いじめが無いよう生活指導をお願いする。